

# 1. “いなみ野”台地の概要



淡河川・山田川疏水の開発の背景には、“いなみ野”台地特有の立地特性や自然的条件があります。

“いなみ野”台地の特筆すべき概要を説明します。

“いなみ野”台地は、兵庫県加古郡稲美町を中心に周辺の加古川市、三木市、明石市、神戸市の一部を含む地域です。

加古川、明石川、美嚢川で区切られた台地で、これらの河川より30～40mほど高い位置にあります。そのため周辺の河川の水を利用することが困難であり、降水量の少ない瀬戸内地域の中にあっても、特に水に恵まれない地域でした。

先人たちは、こうした農業や生活を営む上で厳しい条件下にあっても、台地を流れるわずかな水をため池に集めて荒野を開拓しました。

ため池や水路は、水の確保が困難だった“いなみ野”台地に人工的に築かれたものですが、その歴史は古代の稲作の開始とともに始まったといわれています。その後、江戸時代はじめの姫路藩の新田開発とともに多くのため池が築造されました。

その後、明治時代に入ると、淡河川・山田川疏水が完成し、数多くのため池が新たに整備されました。ため池築造の背景が、地域開発の歴史を物語っているともいえます。

このため“いなみ野”は、全国一のため池数を誇る兵庫県のなかでも、全国屈指のため池密度を有しています。これらのため池群は灌漑用水利ネットワークとして地域を潤すとともに、現在では文化的にも貴重な財産としても注目され始めました。



図3 地形区分図

表1 ため池密度（昭和14年）

町村	水田面積 (ha)	ため池面積 (ha)	ため池密度 (%)
神出	819.1	160.7	19.5
岩岡	618.2	156.2	25.1
魚住	550.9	113.0	20.6
大久保	634.9	202.0	31.9
林崎	404.7	112.6	27.7
母里	811.0	166.1	20.4
天満	863.3	252.5	29.2
加古新	384.2	103.6	27.0
平岡	491.0	147.9	30.0
二見	224.6	38.2	17.0
阿閉	362.9	54.7	15.0
野口	446.3	84.6	19.0
神野	348.0	58.1	16.7
八幡	375.8	56.0	14.9

参考資料：加古川・明石川間台地（兵庫県）の灌漑水利の発達について（竹内常行）

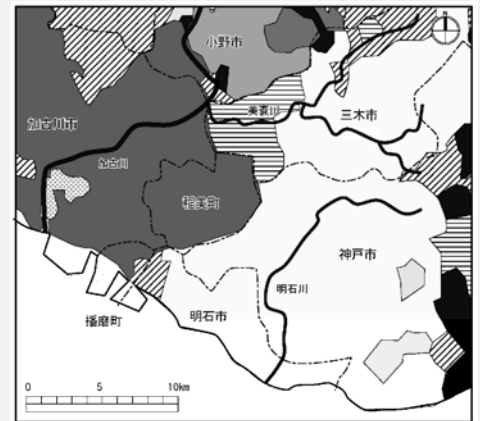
## 1. “いなみ野” 台地の概要

(1) “いなみ野” 台地の位置

水不足の“いなみ野”台地に水を引くため、1771年（明和8）や1826年（文政9）に山田川からの疏水計画がされましたが、その時点では起工には至りませんでした。これは、一つには技術・資金面で困難であったこと二つには水源地域（淡河川・山田川）の大部分は明石藩領、一方灌漑する“いなみ野”台地は姫路藩と複数藩にまたがっており、各藩の分治や村落間の地域的な対立という社会的な関係が大きな問題でした。このように、“いなみ野”台地は、地形的に孤立した台地であっただけでなく、江戸時代の幕藩体制の上からも社会的に孤立していた地域といえます。



図4 “いなみ野” 台地の概略図



- 明石藩
- 姫路藩
- 小野藩
- 旗本領
- 大名領
- 天領
- 入組支配領
- 公家領
- 現在の市町界と市町名

図5 所領配置図  
参考資料：兵庫県所領配置図

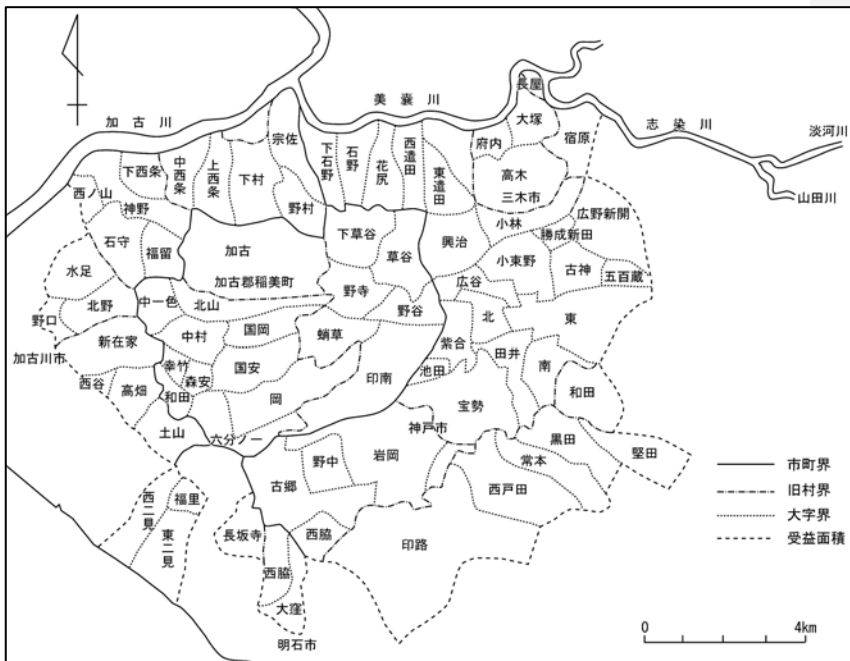


図6 “いなみ野” 台地の旧村名（淡河川・山田川疏水受益地域）

参考資料：明治期における淡河川・山田川疏水事業の展開過程（高松武司）

## 1. “いなみ野” 台地の概要

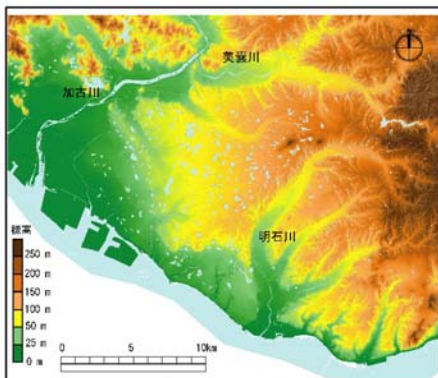


図7 “いなみ野” 台地の地形（等高線図）

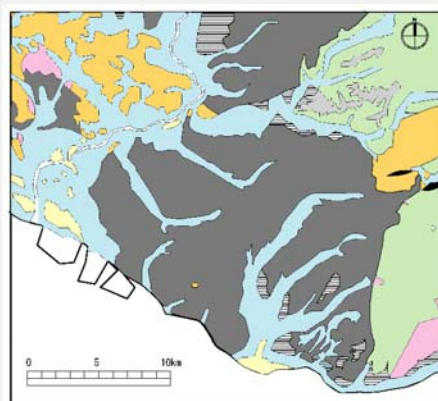


図8 地質図

参考資料：兵庫県表層地質図

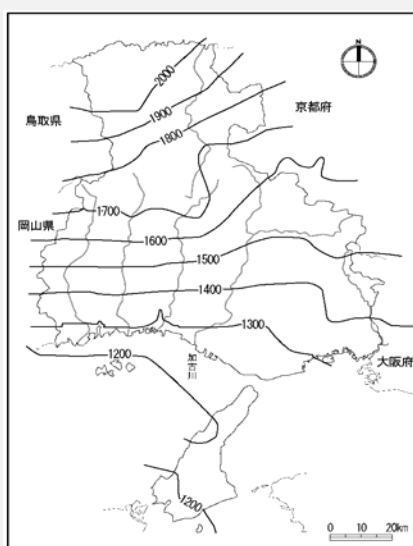


図9 年平均降雨図

参考資料：神戸海洋気象台  
兵庫県地勢・気象

## (2) 自然的条件

### 地形・地質

“いなみ野” 台地は、加古川の左岸にあり、大部分は広大な洪積台地です。東縁と北縁を急崖で囲まれた三角状に孤立した地形となっています。“いなみ野” 台地の大部分は、灌漑期に直接利用できるような河川はほとんどなく、水系的にも孤立していました。

この地域は、第三紀末（500 万年前～170 万年前）以降に六甲山地の間欠的な隆起運動によって形成されたものです。現在は神戸市西区神出町にある雌岡山めつこうさんの山麓部（140m）を最高部として、西南方に向って緩く傾斜し、その末端は加古川の三角州に至ります。

“いなみ野” 台地では、地表に山砂利が現われ、薄い粘土層の下に明石層群や播磨層群に属する砂礫層が厚く堆積しています。このため侵蝕が下部の砂礫層に及んでいない、加古・天満のより広い台地から伏流水などが集まりやすい曇川の下流には地表水がみられます。しかし、侵蝕が下部の砂礫層に達している草谷川・喜瀬川・瀬戸川などの小河川は、砂礫の多い荒れ川となっており、地表水が極めて乏しい河川です。

他方、これらの台地の表面に露出している山砂利層や薄い粘土層の下にある砂礫層は、台地面の地下水の貯留機能を低下させています。

### 気候

この地方は降水量の少ない瀬戸内地域の中にあっても、特に水に恵まれない地域で、過去、度々干ばつに襲われました。

“いなみ野” 台地の平均気温は 15℃前後、平均年間降水量は 1,200～1,300 ミリ程度であり、全国平均の年間降雨量約 1,700 ミリと比べても、この地域は少雨地帯といえます。